

## 第7回東近江市総合計画審議会及び第4回政策推進懇話会 【会議録要旨】

■日時：令和7年12月24日（水）午後3時から午後4時30分まで

■場所：東近江市役所317・318会議室（新館3階）

■出席者：計24名

委員 15名（欠席者5名）

深尾昌峰委員	矢島之貴委員	向 春美委員	谷川裕一委員	湯ノ口絢也委員
安田 剛委員	村田吉則委員	増田伊知郎委員	山崎 亨委員	大塚ふさ委員
白銀研五委員	青地弘子委員	上阪よう子委員	長谷川嘉彦委員	藤田明男委員
(欠席者：原 英児委員 井上由美委員 堤 洋三委員 筒井 正委員 谷川尚己委員)				

事務局 9名

企画部 部長 中堀智之 次長 古川 曜	
政策推進課 課長 上林亜紀 課長補佐 福井敦教 係長 小杉武史 主事 古川祐磨	
株式会社地域計画建築研究所 石井 山本 高瀬	

### 1 開会

事務局	○お忙しい中、第7回東近江市総合計画審議会及び第4回政策推進懇話会へ御出席いただき感謝する。以降の進行を会長（座長）にお願いする。
会長	○忙しい中、参考していただき御礼申し上げる。只今から、第7回総合計画審議会及び第4回政策推進懇話会を開催する。 ○第3期総合戦略及び第3期定住自立圏共生ビジョンについては、本日説明する事務局案について御意見をいただければと考えている。 ○第3次東近江市総合計画については、本日は最終的な確認の段階であり、主に修正点について、御意見をいただければと考えている。 ○これまで御議論いただいた内容を踏まえ、事務局でもできる限り対応して資料を整えてもらっている。事務局から資料の説明をお願いする。

### 2 議題

#### 【政策推進懇話会】（進行：座長）

(1) 第3期東近江市総合戦略（案）について（資料1）

・事務局より資料1の説明

座長	○第3期東近江市総合戦略（案）に関する説明について、質問・意見等があれば伺いたい。
委員	○P.1で国の地方創生の動向について触れるのであれば、現内閣における地域未来戦略本部の設置や、直近で閣議決定された国の総合戦略についても記載した方がよいのではないかと考える。ここが少し弱い印象を受ける。 ○スマート農業について、総合計画の中では扱い手育成の項目に記載されている

	<p>一方で、総合戦略では担い手づくりの部分にスマート農業の記載がなく、生産振興と高付加価値化に関する項目で記載されている。総合計画との間で書きぶりにずれが生じているように感じるので、整理が必要ではないか。</p> <p>○P. 2や P. 8にある基本目標や基本方針について、第1期・第2期の内容を再掲しているのか、第3期で新たに提示しているものなのかという位置づけが、ぱっと見て分かりにくい。誤解がないよう明確に伝わる表現にした方がよいと感じている。</p>
事務局	<p>○国の地方創生の動向については、委員の指摘のとおりであり、国の総合戦略が閣議決定されたことも踏まえ、記載の追加を検討したい。</p> <p>○スマート農業については、産業振興と担い手支援の両面がある。総合計画との整合性を含めて、担当課と確認を行い、記載の整理を進めたい。</p> <p>○基本目標や基本方針の表記についても、第1期・第2期の再掲か、第3期で提示したものか分かるよう、書きぶりを含めて修正を検討する。</p>
委員	<p>○P. 39の「多様な地域資源をいかした観光振興」について、現在、主に観光協会が行っている取組が記載されているという印象を受ける。</p> <p>○一方で、次のP. 40の「特色ある景観の保全、創出、活用」のところでは、里山の活用推進として森と水政策課の取組が挙げられている。</p> <p>○東近江市では「東近江市エコツーリズム推進全体構想」を定めており、市内にあるさまざまな地域資源を活用しながら観光を進め、いわゆるエコツーリズムを振興するとともに、地域資源の保全・再生を図っていこうという、大きな観光の柱が一つある。</p> <p>○そのため、観光協会が担う取組だけでなく、市として進めていくエコツーリズムの推進という位置づけを、この観光振興のところにも入れていただきたいと考えている。</p>
事務局	<p>○エコツーリズムの推進についてであるが、P. 36に先ほど説明した「地域資源の保全活用と情報発信」の部分で、自然豊かな自然の保全と活用に取り組むという説明をしている。</p> <p>○P. 36の10行目、「豊かな自然の保全と活用」の中で、表の上から2段目に、「鈴鹿10座をはじめとする森里川湖の地域資源の保全と活用を通じて、多くの人に本市の自然環境の価値を認識してもらうため、地域主体の持続可能なエコツーリズムを推進する」と位置づけている。</p> <p>○P. 36～P. 37については、どちらかというと地域資源の保全活用、それを未来につないでいくという視点で整理している。</p> <p>○一方で、P. 39については観光振興という位置付けであり、エコツーリズムについては両方に関わる内容であると認識している。</p> <p>○ただ、今回の総合戦略の中では、特に、より強い思いとして、豊かな自然の保全と活用に資する取組であるという位置付けで、P. 36側に整理させていただいている。</p>
委員	<p>○私もそのP. 36の記載を見た上で発言している。</p> <p>○エコツーリズムの考え方は自然資源の保全・活用にあるという前提是理解して</p>

	いるが、再掲という形でも構わないので、それを活用した観光の振興という記載があつてもよいのではないかと考えている。
事務局	○記載について、再度検討する。
会長	○後からお気づきの点があれば、1月中旬頃までを目安に、事務局へ伝えていただきたい。 ○そうした意見も含めて検討を行い、2月の政策推進懇話会の場で最終的に整理したいと考えている。

## (2) 第3期東近江市定住自立圏共生ビジョン（案）について（資料2）

### ・事務局より資料2の説明

座長	○第3期東近江市定住自立圏共生ビジョン（案）に関する説明について、質問・意見があればお願ひしたい。
委員	○成果指標の目標値について、その根拠を教えていただきたい。 ○例えばP.6の「病院や緊急時の医療体制に満足している人の割合」であるが、基準値が50.7%、目標値が60.0%となっている。この目標値の根拠を伺いたい。 ○P.9の「子育て支援拠点利用満足度」について、目標値100%となっているが、満足度100%という目標は達成が可能なのか疑問である。 ○P.22の「職員研修受講率」について、目標が97.0%となっている。これは逆に100%を達成することが可能なのではないかと思う。「職員が研修を受ける」という目標値について、97%という数字を示すのは市として格好がつかないのではないかと感じている。
事務局	○P.6の「病院や救急時の医療体制に満足している人の割合」について、こちらは毎年実施している市民意識調査の回答結果により計測しているが、過去からの数値の推移を勘案し、市として医療体制を確保するという観点から設定している。 ○「子育て支援拠点利用満足度」について、100%という数値は確かに難しいものではあるが、目指すべき数値として設定している。 ○職員研修受講率の目標値について、業務や体調不良の都合により当日受講できなくなる事例があり、そのような中で現実的な目標値として設定したものである。 ○ただし、職員研修という指標で100%を目指さないという見せ方について、担当課とも話をしており、改めて調整したいと考えている。持ち帰って検討したい。
会長	○この表現だと、3%の人は研修を受けなくてもよいと受け取られてしまいかねず、表現を工夫すべきだと考える。
委員	○資料2-1の1枚目について、備考欄に「総合計画の指標」「総合戦略の指標」と書いてあり、準用しているということは理解した。 ○しかし、戸別受信機とケーブルテレビについては引用元の記載がない。どのような扱いなのか。
事務局	○記載のないものについては、この定住自立圏共生ビジョンにおいて個別に設定している指標である。

委員	○そうであれば、なぜその指標が総合計画や総合戦略にないのかという疑問が生じる。
事務局	○考え方として、総合計画は最上位計画であり、その中の最重要指標を成果指標として定めており、総合戦略では、取組の中で代表的に数値化できる指標を設定している。定住自立圏共生ビジョンでは、ネットワーク化を図る事業など、個別に抜き出した事業を位置付けており、それに直結する指標を設定している。 ○例えば、防災分野では戸別受信機の設置率を位置付けており、この事業に直結する指標として適切であると判断している。
委員	○戸別受信機を切り出せばその考え方は理解できるが、それより上位の、より重要な指標が計画や戦略にあるのであれば、合わせた方がよいのではないかと感じた。 ○ケーブルテレビについても、総合計画か総合戦略のどこかに似た指標があったように思う。
事務局	○ケーブルネットワークの活用促進については、総合計画のP.138で位置付けており、「情報の道を活用する事業者件数」を指標としている。この指標が増えれば、より多くの情報発信が市民に対して行えるという位置づけである。 ○定住自立圏共生ビジョンでは、ケーブルテレビで情報を取得する割合を指標としているが、共通の指標とした方が分かりやすいか、整合性があるかについては、一度持ち帰って検討したい。
委員	○P.22の一番上、「職員の対応の印象がよかつた割合」が目標値60.0%となっているが、これは低すぎるのではないか。東近江市の職員は住民サービスも良く、言葉遣いも丁寧で、対応能力は高いと感じている。 ○基準値の58.8%という数値は、どのような期間で、どのように取っているのか。窓口等でアンケートをとっているのか？
事務局	○基準値の58.8%の数値について、市民意識調査の回答結果によるものである。 ○担当課とも協議し、もう少し高い目標が設定できないか検討したが、過去の推移を踏まえ、少なくとも維持すべき水準として、60.0%を設定した。
会長	○市民意識調査でこの数字を取ることが、本当に改善や目標値としてよいのか、という点は考える必要があると思う。 ○市民の多くは、市役所職員と1回も接点なく生活している場合が多い。そうすると、「印象がよかつたか」「悪かったか」と聞かれても、答えようがない、あるいは「いい」と言えない、ということが起こり得る。 ○したがってこの種の指標については、例えば期間を決めて、市民対応の窓口で紙を配り、QRコードでその場で回答してもらう、といった手法の方が、結果として職員も励まされるし、ここで出ている数字とは全然違う数字が現れる可能性もある。 ○経年変化で見たときにアベレージはこの辺だろう、という今の理屈も分からなくなはないが、その数字がどれくらい意味のある数字なのか、という点は改めて考える必要がある。

	○「対応に6割ぐらいの人しか満足していない」という理解になってしまうのも、もったいないと思う。数字の意味や数値の取り方について、工夫の余地があるのではないかと思うが、いかがか。
委員	○私も同じ考え方である。市民意識調査では職員の対応能力は分からぬいため、調査方法を見直した方がよいと思う。 ○東近江市の職員は丁寧に対応していただいており、みんな親切である。
事務局	○内容について、再度検討する。
委員	○P. 16の「多様な地域資源の活用の推進」における指標「自然と関わる人の割合」について、この割合はどこから取っているのか。おそらく市民意識調査と推察するが、東近江市では地域の方々に「自然と関わっているか」と尋ねれば、100%関わっているのではないかと思うほど、日常的に関わっていると考えられる。それにも関わらず、なぜこうした数字になるのか。どこから取った数値なのか、具体的に、どのような内容をもって「自然と関わっている」と判断しているのか教えてほしい。 ○P. 17の「中心市街地の通行者数」についても、どこの場所で、どのような期間・方法で算出した数字なのか、判断しかねるので教えてほしい。
事務局	○P. 16の「自然に関わる人の割合」は、委員のお見込みのとおり、市民意識調査の回答結果により計測している。市民意識調査では、「日常生活や仕事の中で自然との関わりを感じるかどうか」を尋ねており、その結果として、57.6%の方が「自然との関わりを感じる」と回答している。この結果をどう解釈するかは様々であるが、東近江市にとって自然が身近で「当然のもの」となっているがゆえに、普段は自然があっても「関わりを感じる」とまでは認識されない方が一定数おられ、その結果として60%に満たない数字になっているのではないかと考えている。そこで、エコツーリズムの推進や鈴鹿10座の保全活用などを展開することで、自然の価値に関する再認識につなげたいと考えている。 ○17ページの中心市街地の通行者数については、年に1度、土日と平日の両方で計測を行っている。計測地点で通行された方の数を集計し、その結果を指標として扱っている。
委員	○説明を聞けば趣旨は理解できるが、非常に曖昧で、やや漠然とし過ぎているように感じる。もう1つ別の指標も検討いただいた方がよいと思うので、よろしくお願ひしたい。
委員	○P. 18の都市基盤について、基本目標として「圏域内の交通手段確保の継続」とあり、基準値・目標値も「確保」となっているが、この点を質問したい。 ○例えば令和11年に「確保」という目標に達成したという判断は、成果指標の下の小項目である「公共交通の維持確保」や「道路の整備促進」の数字がクリアできたら「確保」と位置付けるのか。逆に言えば、進捗状況を確認したとき、どういう割合・どういう状態であれば「確保できていない」と判断するのか、教えてほしい。
事務局	○公共交通において「充実」の視点で考えると上限がなく、例えば東京のように2、3分に1回電車が来るのがよい、という議論にもなり得る。しかし、本市

	<p>の状況でそれが実現可能かという視点に立つと、「できるだけ上がればよい」という指標設定は難しい。</p> <p>○そのため、まずは現在ある交通手段を維持・確保することが必要であるという考え方で「確保」と設定している。</p>
委員	<p>○1期、2期、3期と継続されているが、ケーブルネットワークなど情報発信の中で数値が伸び悩んでいるものについて、違う手法で広げていくというより、最初に決めたものを継続し、その数値が上がることを目標としているように見える。</p> <p>○民間であれば、施策を打って改善されなければ方向転換したり、別の施策を打ったりするが、市の運営としてはそういう形を取っていく考えなのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>○行政においても、事業を続ける中で数値が上がらない場合に、別の数値を設定する、という考え方は当然あり得る。一方で、一貫性という観点から、上がらないから別の指標にするのではなく、その指標を上げるために別の取組を進めていく、という考え方もあるかと思う。</p> <p>○定住自立圏共生ビジョンについては、第1期から第3期案に至るまで、基本的に数値目標は踏襲する形で設定しており、1期から目指してきたものを引き続き実現に向けて取り組む、という考え方で設定している。</p>
委員	<p>○最初に設定した目標に対して、当初より世の中が変わっている。進むべき方向や構成も変わってこようと思うが、それはいつ修正がかかるのか。</p>
事務局	<p>○修正がかかるとすれば、まさに今回お諮りしておりますような、次期ビジョン策定に係る検討の際である。</p> <p>○指標の設定が果たして正しいかという点は、本日、委員から様々な指摘をいただいたので、再度検討が必要であり、全体的に見直しを図りたいと考えている。</p>
委員	<p>○情報発信という点では、これまでの生活様式を前提に考える施策から、方向転換する必要があるのではないか。</p> <p>○特に戸別受信機が普及していないことについて、防災の点で施策が弱いと感じている。自分の家にも付けていないし、ほとんど家にいない。外国人住民の増加や、短期間東近江市に住まわれる方も多くなってきており、そういう方に対しても、災害時の連絡体制の整備が必要である。自治会に加入していない、自治会自体がない新興住宅もあるという問題もある。そこに対して、どう情報発信していくかという新たな政策が追加で必要になり、それに対する整備も必要になってくる。検討をお願いしたい。</p>
会長	<p>○行政情報の発信という文脈では、今のような点も含めて考えておられると思うが、こことの紐づけ、すなわち国の金を取ってくる文脈での位置付けや建前、立て付け感が関わってくる。</p> <p>○なぜこれを作るのか、というところとの兼ね合いで、すべてをここに網羅することは難しく、重点化として絞り込んだ、という説明もあった。</p> <p>○十分認識されているとは思うが、その点を一度、事務局として整理して伝えて</p>

	いただきたい。
委員	<p>○時代の流れで、新聞を取らない、テレビを見ない、情報はスマホで入手するという流れがある。その流れへの対応として、ケーブルテレビでもネット配信を始めている。</p> <p>○市としても過渡期であり、すぐに全住民が対応するのは難しいが、告知で伝える、ケーブルテレビで伝える、プッシュ通知でスマホに伝えるといったことも視野に入れて進めていく必要がある。</p>
委員	<p>○P. 18について、「確保」ではなく、輸送量など、どれだけ人や物を運べるのかという指標の方が分かりやすいのではないか。具体的な数値がなければ、目標が定まらないのではないか。</p> <p>○P. 19の戸別受信機については、今後も多額の費用をかけて更新するのかという疑問がある。スマートフォンやデジタルを活用した配信の方が、より分かりやすい情報提供になる。戸別受信機の発信では、そのときに家にいなければ分からぬ。新たなＩＣＴの活用を考えた方がよいと思う。</p>
事務局	<p>○戸別受信機を代表として挙げているが、スマホやＳＮＳでの情報発信など、様々な媒体を複数使っていく考えである。</p> <p>○戸別受信機でないと、という方も中にはおられるので、その辺も残しながら、複数の媒体で取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>○今の点も、具体的に取り組む事業のところを見れば、防災情報告知、告知放送システム整備事業であり、時代に合わせた媒体や取組が網羅されている。</p> <p>○指標としてはそこにフォーカスしているが、国の補助金も活用しながら、事業を有効に展開していくことは変わらない。</p> <p>○時間の関係で、ここで区切りたい。追加の意見があれば、1月16日までに事務局へ連絡してほしい。次回は、修正内容や意見を踏まえて議論を行いたいので、よろしくお願ひしたい。</p>

### 【総合計画審議会】（進行：会長）

#### (3) 第3次東近江市総合計画第1期基本計画（案）について（資料3）

##### ・事務局より資料3の説明

会長	<p>○前回御意見をいただいた部分については修正を行った。本内容をもって最終案とし、答申としたいと考えているが、よろしいか。</p>
	○意見なし
事務局	<p>○本内容をもって、この後、市長に答申を行いたいと考えている。</p> <p>○非常に密度の濃い時間であり、多岐にわたる内容を、限られた時間の中で議論し尽くしていただいた皆様に、改めて深く感謝を申し上げたい。</p> <p>○それでは、答申の準備に入るため、進行を事務局にお願いしたい。</p>

・司会進行を事務局に返す。

部長	<p>○本日の総合計画審議会をもって、本審議会は最終となる。この後、審議会から市長への答申を行っていただく。</p>
----	--

	<p>○第3次総合計画の策定にあたっては、これまで長期間にわたり、委員の皆様から専門的な立場で、各分野について多様な視点から多くの御意見、御指摘を賜ってきた。これまでの皆様の御尽力に対し、心から感謝を申し上げる。</p> <p>○今後は、パブリックコメントを経た上で、基本構想を3月市議会定例会に上程する予定であるので、御承知おきいただきたい。</p> <p>○新年度となる4月以降は、取りまとめていただいた第3次総合計画に基づき、各分野の取組や施策を着実に進めていく考えである。職員一丸となって取組を進めていく。今後とも引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いしたい。</p> <p>○なお、政策推進懇話会については、来年2月18日が最終となる。先ほど座長からも案内があったとおり、総合戦略等の最終確認をお願いすることになるので、よろしくお願い申し上げる。</p> <p>○今年も残すところ1週間となり、何かと慌ただしい時期である。寒さも一段と厳しさを増し、インフルエンザも猛威を振るっている。皆様におかれでは、どうか御自愛いただくようお願い申し上げ、閉会の挨拶とする。</p>
事務局	<p>○以上で、第7回総合計画審議会及び第4回政策推進懇話会を閉会する。</p> <p>○次回は令和8年2月18日(水)14時から開催予定</p>

閉会